

【 小論文 】

次の文章は、丸山徹「アダム・スミス『国富論』を読む」(岩波書店)第3章「価格と競争」に関する文章です。これを読み、下記設問に簡潔に答えなさい。

【出題趣旨】

アダムスミスは、自由主義経済・市場経済の利点を説いた先駆者であるが、高校の社会の教科書をはじめとして、自由放任の経済学というレッテルが張られることが多い。著者の丸山氏は、「アダムスミスは、自由を放任することを説いたのではなく、自由な経済が機能するための条件として市場で競争プロセスが機能していることが前提条件となること」を指摘している。既存の通説的理解を覆す論稿に対する理解力を通じ、市場経済というシステムの理解力を試すことを出題趣旨としている。

設問1 今日の経済理論における競争の概念とアダムスミスの考える競争の概念の違いを述べよ。(20点)

【解答例】

今日の経済理論における競争は、純粋競争を念頭に置く静的なものであるが、アダムスミスの競争は、競争プロセスが機能しているかを考える動的な競争を考えている。そして、競争プロセスが機能するための前提は何か、その障害が何かを考え、それを除去していくという考え方である点で異なっている。競争法の考え方は、アダムスミスの考え方に近い。

設問2 自然価格による「均衡と市場価格による「均衡」の違いを述べよ。(20点)

【解答例】

市場価格の均衡は、需要と供給の均衡点で決まるが、自然価格の均衡は、競争によって生じる。

設問3 「神の見えざる手」というアダムスミスの思想について誤解があると作者は考えている。

(1)誤解されている考え方(一般の考え方)はどのような考え方か。(20点)

(2) 作者の考え方はどのような考え方か。(20 点)

(3) 上記(1)と(2)の考え方は、どこが同じで、どこが異なるのか。市場価格が自然価格に収れんするにあたって競争はいかに作用するとアダムスミスは考えていたのかを考察しつつ回答せよ。(20 点)

【解答例】

(1) 自由放任の経済学とみなされ、市場価格だけで均衡を考える傾向にあるとみられている。「新古典派経済学あるいは新自由主義の教祖のように見られている。」との答えはなおよい。

(2) 二重の競争の圧力の結果として生じた自然価格への均衡によって、個人が意図しているわけではなくことも、個人の思惑を超えた目的—国富の最大化—がもたらされる。

(3) 均衡を考えるのは同じだが、その均衡が需要と供給の均衡（市場価格の均衡）を考えるのに対し、アダムスミスは、その均衡が、競争のプロセスが確保されるなどの重要な条件が整うことによって、自然価格の均衡に収れんしていく。そこに収れんされて初めて、国富が最大化する。何もしなければいいという発想ではなく、競争プロセスが確保されるなどの市場の各プレイヤーが独立して行動することが確保される必要があると考える点で、違いがある。アダムスミスは、市場価格が自然価格に収れんしていくには時間がかかり、条件が整う必要があるが、スミスの考える競争の確保（競争プロセスの確保）は、その条件を整える作用を有する、と考えている。

以 上